千葉市感染症発生動向調査情報

2015年 第49週（11/30-12/6）の発生は？

1 定点報告対象疾患（五類感染症）

上段：患者数
下段：定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

報告のあった定点数	49週	48週	47週	46週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	4	5
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	28	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	千葉市 注意報	11/30-12/6 49週	11/23-11/29 48週	11/16-11/22 47週	11/9-11/15 46週	千葉県 11/23-11/29 48週
小児科	RSウイルス感染症	↓	14 0.78	18 1.00	17 0.94	11 0.61	118 0.87
	咽頭結膜熱		5 0.28	4 0.22	9 0.50	11 0.61	87 0.64
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		46 2.56	33 1.83	42 2.33	34 1.89	378 2.80
	感染性胃腸炎		186 10.33	111 6.17	128 7.11	86 4.78	765 5.67
	水痘		24 1.33	10 0.56	13 0.72	9 0.50	82 0.61
	手足口病		6 0.33	3 0.17	1 0.06	6 0.33	54 0.40
	伝染性紅斑		9 0.50	8 0.44	16 0.89	14 0.78	72 0.53
	突発性発しん		8 0.44	16 0.89	15 0.83	15 0.83	66 0.49
	百日咳		0 0.00	0 0.00	1 0.06	0 0.00	3 0.02
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	1 0.06	0 0.00	3 0.02
	流行性耳下腺炎	○	15 0.83	10 0.56	10 0.56	12 0.67	141 1.04
インフル	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ（高病原性鳥ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞを除く）		2 0.07	2 0.07	8 0.29	2 0.07	31 0.14
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		2 0.40	8 1.60	9 2.25	4 0.80	26 0.76
基幹定点	細菌性髄膜炎 （髄膜炎菌性髄膜炎を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	1 1.00	3 3.00	1 1.00	6 0.67
	クラミジア肺炎 （オウム病を除く）		0 0.00	1 1.00	1 1.00	0 0.00	1 0.11
	感染性胃腸炎 （ロタウイルスに限る）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★：流行中　★：やや流行中　◎：増加　○：やや増加　→：変化なし　↓：やや減少　↓↓：減少

2 全数報告対象疾患（5件）

病名	性	年齢層	診断（検査）方法	病名	性	年齢層	診断（検査）方法
結核	男性	30歳代	病原体等の検出	レジオネラ症	男性	50歳代	病原体抗原の検出
結核	男性	50歳代	病原体の検出	急性脳炎	女性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状
結核	男性	70歳代	画像診断等	－	－	－	－

・結核3件（203）、レジオネラ症1件（13）、急性脳炎1件（14）の報告があった。

※ （）内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

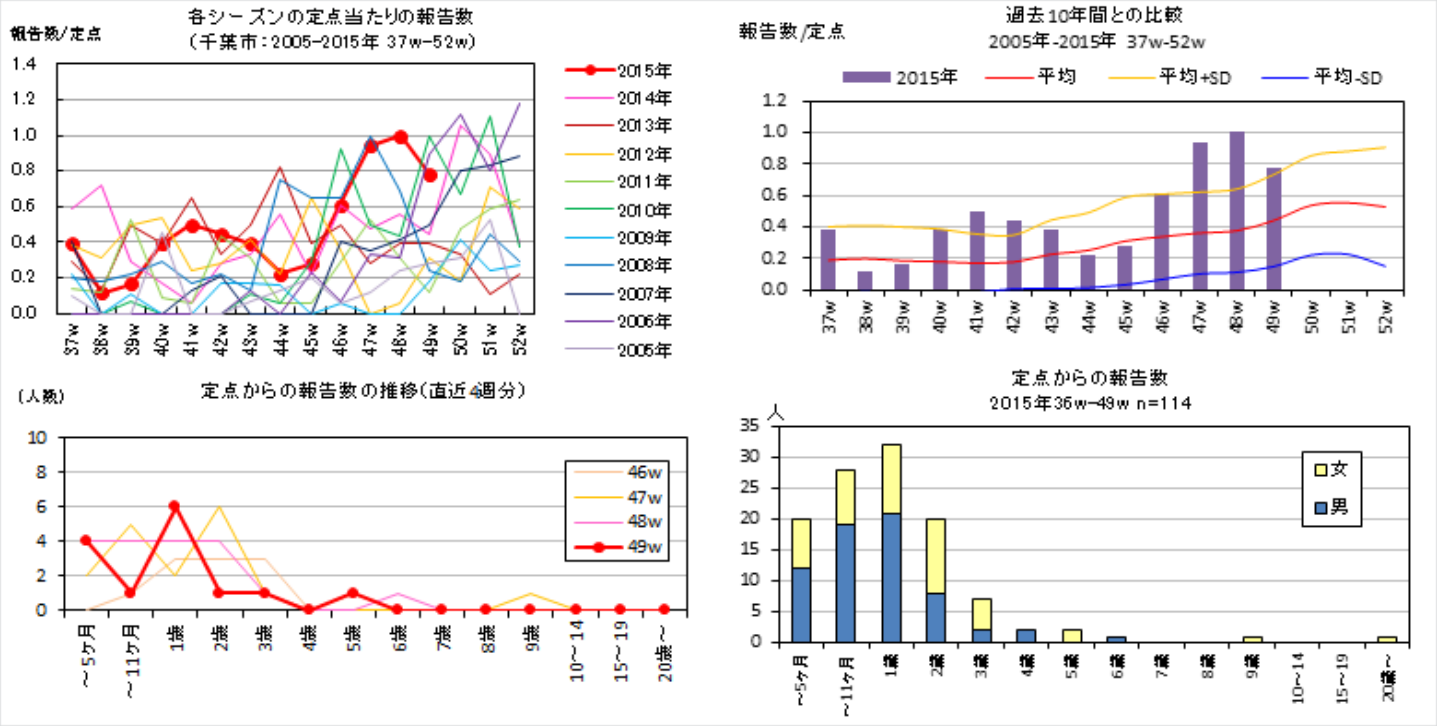
定点当たり報告数　第49週のコメント

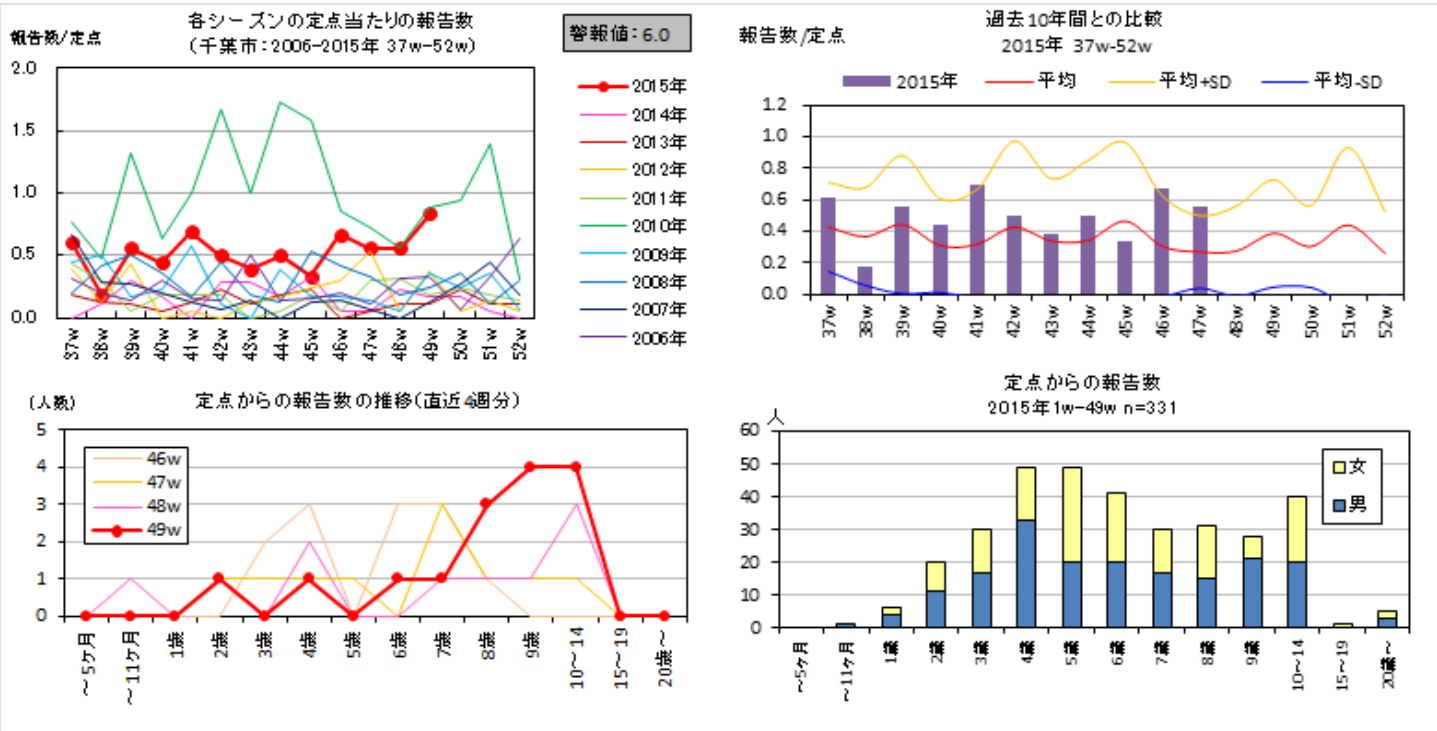
＜RSウイルス感染症＞前週より減少し0.78となった。過去10年の同時期と比べると多い。
＜流行性耳下腺炎＞前週より増加し0.83となった。過去10年の同時期と比べると最も多かった2010年に次いで多い。

■ トピック ■

＜RSウイルス感染症＞

全国レベルは第41週から過去8年の同時期と比べると最多の状況で推移しており、第48週も同様となっています。都道府県別では、鳥取県、福井県、香川県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なくなっています。千葉市の2015年第49週は前週より減少し0.78となりましたが、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、緑区（1.75/定点）で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2015年第36週から第49週までの累積報告数（n=114）によると、性別では男性が57.0%（65名）、女性が43.0%（49名）で、年齢階級別では1歳（28.1%：32名）、6～11か月（24.6%：28名）、6～11か月及び2歳（共に17.5%：20名）の順に多くなっています。



＜流行性耳下腺炎＞

全国レベルの第48週は過去8年の同時期と比べ多くなっています。都道府県別では、佐賀県、石川県、沖縄県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2015年第49週は前週より増加し0.83となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、若葉区（4.0/定点）で流行発生注意報基準値（3.0/定点）を上回り最多で、同区の10歳代前半で最も多く、一年代当たりでは9歳で最も多く発生報告がありました。若葉区では第18週から例年に比べ高い水準で推移しています。2015年第1週から第49週までの累積報告数（n=331）によると、性別では男性が55.0%（182名）で女性が45.0%（149名）で、年齢階級別では4歳及び5歳（共に14.8%：49名）、6歳（12.4%：41名）の順に多くなっています。